

## 安全情報

2012 年 9 月 18 日

非血縁者間骨髄採取認定施設

採取責任医師 各位

採取麻酔責任医師 各位

(公財) 骨髄移植推進財団

ドナー安全委員会

### 『歯牙損傷への対応』について（お願い）

平素は、骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、気管挿管全身麻酔で行われる骨髄採取手術に際して、挿管操作あるいは麻酔中の体位による歯牙損傷が合併症として報告されております。（概要は別紙 1 参照）

また、最近では、一般的な手術症例においても、周術期における口腔ケアの重要性が高まっています。

つきましては、骨髄提供ドナーにおきましては、術前外来等において、動揺歯などへの十分な評価と説明にご留意いただき、必要な場合は専門的な口腔ケアをご考慮いただけますようお願いを申し上げます。

公益財団法人骨髄移植推進財団

ドナー安全委員会 事務局

ドナーコーディネート部 折原・橋下・松原

TEL 03-5280-2200 ・ FAX 03-5283-5629

## (別紙 1)

### <事例概要>

#### ◆事例1

麻酔導入後、ドナーの歯にぐらつきが見られた。口腔外科を受診（X-P実施）し、もともと歯がぐらつくような要素がある方だと思われるが、本人に自覚はなかったと思われる。その後1か月間固定し、1か月後に固定されていれば終診。固定されていなければ、抜歯して差し歯の作成が必要との見解が示された。本事例においては、固定されていたため、終診となった。

#### ◆事例2

ドナーより、骨髄採取帰室後、差し歯がなくなっているとの訴えがあった。周辺を捜したが発見できず、レントゲン撮影にて飲み込んでしまっていることが、判明した。差し歯は自然排泄を待つこととし、差し歯の再作成を行った。

#### ◆事例3

ドナーのご家族から、挿管時に差し歯（前歯）が損傷したとの連絡があった（ドナー本人は、嘔気、嘔吐症状が強く、正確な状況を確認出来なかった）。採取翌日に歯科受診し、差し歯を入れ、少し欠けたところも直した。その後、問題にはなっていない。

#### ◆事例4

退院後、上前歯4本の差し歯のぐらつきの訴えがあった（上前歯4本のうち中2本の歯根はなく、外側2本の歯根のみあり、4本を外側2本の歯根でワイヤー固定の状態）。近医の歯科医院を受診した結果、差し歯を支えている外側2本の歯根部が折れ、血液が溜まっていたため、応急処置で洗浄が行われたが、早期のインプラント処置が必要との見解が示された（診断書には、骨髄採取術中の体位が挿管によるものであろうとの記載）。治療期間は6か月以上が見込まれている。